

【特集1:大阪研修旅行】

大阪研修旅行を振り返って

地域環境委員会委員長 宮坂 直志



【大阪市中央公会堂にて】

地域環境委員会で準備をしてきました大阪研修旅行を、6月23日(金)から6月24日(土)の1泊2日の行程で開催いたしました。正会員18名、法人協力会員3名、個人協力会員1名、事務局1名の合計23名という多くの皆様に参加していただき誠にありがとうございました。委員会の皆様、事務局の佐藤さん、池森担当副代表、林代表、多くの皆様のご協力で実現できたことに合わせてお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、研修旅行としては2019年7月の夏のセミナー(茨城県方面)以来、実に4年ぶりの開催となりました。今年の2月から委員会を開き、研修旅行の内容について議論を重ねました。その中で重要視したことは、1泊2日の行程でJIA長野県クラブらしく可能な限り建築見学三昧とすることでした。また、候補地についても沢山の建築物がある都市部で、かつ、1泊2日で行ける所ということで大阪が選定されました。余談ですが、近年のバス事故により運行時間、運行距離等の法的規制が以前より厳しくなったため、結果的には大阪までが行程の限界でした。見学候補の建物に関しては明治から近年に竣工した建物、まちづくりに関係するもの、地域材に関係するものといった広範囲に渡る中から選定し、選定した建物でガイド案内が可能なものについては全てお願いをすることにしました。行程については、バスの運行時間外は徒歩移動をして見学をするというハードなスケジュールになってしまいましたが、合計7か所の建物見学ができる行程を組むことができました。実際の旅行についてですが、JIA長野県クラブの活動の記録ブログを是非御覧ください。



【大阪府立狭山池博物館にて】

私個人(委員長という立場なので客観的にはなれないかもしれませんが)の感想としては特にトラブルがなく無事故だったことが一番です。また、バスの乗車時間が長かったのですが、その時間を活用して、下崎総務委員長が「本音で(気軽に)語る会 in BUS」を企画し、開催してくださいました。さすがは参加者の皆さん、話が尽きることなくあっという間の乗車時間となりました。また、ガイドによる建築案内も建築家目線とは違った観点から歴史的背景など知ることができて知見が広がりました。建築とともに大阪文化にも触れ、目一杯の2日間でしたがとても濃密で建築三昧の研修旅行となったと思います。次回は立場が変わると思いますが、他会では味わえないJIA長野県クラブらしい研修旅行を楽しみにしたいと思います。

最後になりますが、当初、見学候補として計画をしていた大阪芸術大学の芸術情報センター(設計:高橋誠一)とアートサイエンス学科棟(設計:妹島和世)についてですが、芸術情報センターは少人数(2~3人)の見学のみ、アートサイエンス学科棟については原則、見学不可能ということで今回は断念しましたが、毎年2月頃、大学の卒業展を1週間ほど開催するそうです。その時には全ての施設が見学可能となることを大学側から教えていただきました。大阪へ行く機会がある方、見学を希望の方は是非、覚えておいてください。



松本市立博物館 見学会

伊東 亮一（工事監理）



【参加者集合写真】

松本市立博物館は明治39年、松本尋常高等小学校内に「明治三十七、八年戦役記念館」として開館。その後、松本記念館として松本城敷地内に移り、昭和23年に松本市立博物館として開館しました。今回新しく建設された松本市立博物館（以下新博物館）は松本城の南側、大名町通りと土手小路に面した中心市街地に位置します。枯らし期間（汚染化学物質を放散させるための通風乾燥期間）および展示工事を経て、令和5年10月7日にオープンを迎えます。

今回、松本市のご厚意により JIA 長野県クラブ夏のセミナーの一環として新博物館の見学会を開催することができました。正会員および法人協会会員合わせて約50名が参加しました。松本市より三木様（博物館担当）、後藤様（建築監督員）にもご同行いただきました。設計監理をおこなった久米設計安東様（上級担当役員設計本部プリンシパル）、三浦様（プロジェクト責任者）、水谷様（意匠設計担当者）から新博物館の概要・コンセプト等をご説明いただきました。また、特別ゲストとしてプランツアソシ

エイツの宮崎浩様（長野県立美術館設計者）にもご参加いただき、より実りの多い見学会となりました。

新博物館は延床面積約7,775㎡、地上3階建て。松本てまりをモチーフとした外壁・ガラス・軒の深い庇・切妻屋根が外観の特徴となっています。1階は人々が気軽に立ち寄れるようガラス張りでオープンな造りとなっています。2・3階展示室と収蔵庫は高断熱・高気密の部屋で包まれた「魔法瓶構造」となっており、安定した温湿度環境と展示物の安全性に配慮されています。地震時の天井材落下による展示物破損を防ぐため、折板屋根やRC逆梁スラブがあらわしでデザインされています。

小職は新博物館建設に監理担当者として携わりました。RC造・S造・PC造・木造・折板屋根構造・GRCカーテンウォール・2辺支持ガラスカーテンウォールなど多種多様な構造・工法が採用されています。膨大な量の施工図・製作図・施工計画書のチェックと立会検査はかなり大変でしたが、松本市立博物館の新たな歴史に関われたことは貴重な経験でした。



【内部見学】



【外部見学】

2023夏のセミナー 技術交流会に参加して

交流委員 坂本 浩（元旦ビューティ工業（株））

今回の「技術交流会」は、いつもとは異なり協力会員からの一方的な説明・アナウンスではなく、正会員によるテーマに対するアプローチ～考え方を掲げて協力会員からの意見も取り込み議論するという形式により執り進められた。テーマは「環境～断熱」について。特に昨今の温暖化傾向の中での焦点の絞り込みに「どのアングルから考えれば良いのか？」を漠然と捉えていた小職にとって、興味深いテーマであった。『エコ』・『SDG's』・『カーボン・ニュートラル』・『創・省・蓄エネルギー』・・・

環境に関わる用語は氾濫しているものの、その相反する位置づけとどのように対峙すべきか？

【正会員として】建物を設計する側として「断熱性能をどこまで上げればよいのか？」「ZEB・ZEH 基準をどこまで追求すべきか？」或いは違う観点として「昔からの建築（民家）法を更に推敲して、人為的な資材（断熱材など？）や器具・工法システムに依存せず、自然体の中で“しのぐ”手法を取り入れるべきか？

【協力会員として】製品・資材を開発～提供する側として「性能値を把握した上での提案・工法開発」、「差別化の定義」、「製品化するにあたっての環境対策（ライフサイクルアセスメント）」云々

大きなポイントとしてこれらを鑑みた上での“コストパフォーマンス”はどうか？議論の中では『政治・政策』に対しての未成熟さ、『メディアを含めた基本的論点の食い違い』、『情報に対する各々の選択力』等々多角的に発言されたものの、総括して「建築家としてどういう表現が出来るか？」

日射に対する対応、ガラスの使い方、植栽を活かす手法、風の採り入れ方、特に巨大ビル群の中での都会と異なり、信州の環境下における建築家としての対峙法については、引き続きこのような議論を重ねる必要があると思われ、これによる他の地域とは異なった特性の建築が生まれることも魅力的な！A長野県クラブのこれからとはならないものなのでしょうか？



【会場となった薬師平菴宿】



【技術交流会の様子】



2023 年度 新 入 会 員 紹 介

今年も多くの新入会員を迎えています。
新入会員の皆様、宜しくお願いします。

正 会 員

【武重 直人：(株) 武重建築設計】



この度 JIA に入会いたしました、株式会社 武重建築設計の武重直人と申します。佐久市出身で 2018 年より地元佐久で設計事務所を営んでおります。自然環境や生活風土などを考慮し地域に根差した設計に努めております。

現在は街づくりや景観、観光や保存再生、脱炭素など建築を取り巻く環境が大きく変化している時代ですが、建築家の職能・活動が地域において期待され、また貢献できる事も多いと感じております。

会の皆様とのご縁を大切に、精進していきたいと思っております。また、JIA の諸先輩方や会員の皆様と共に活動できることも嬉しく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【中田 啓予：(株) ナカタヒロヨスタジオ】



1978 年富山県生まれ。2001 年日本大学生産工学部卒業。学生時代は宮脇檀、中村好文に師事し居住空間について学びました。

卒業後は小林盛設計事務所を経て富山県で独立しましたが、結婚を機に長野県へ事務所を移転いたしました。雪国に生まれ育ったということもあり、地域環境との調和や室内温熱環境などに配慮した設計を心がけております。この自然豊かな長野の地でさらに建築の在り方、暮らし方を探究していく所存です。

JIA 長野県クラブの一員として、会員の皆様にご指導いただきながら、建築文化の発展と社会貢献に努めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

個 人 協 力 会 員

【矢口 達也】



本年度より個人協力会員として入会させていただきました矢口達也です。1976 年大町市出身、松本市内の設計事務所に十数年勤め、2019 年より現在のケイ・アーキテツク合同会社に在籍しています。入会して僅かですが、皆様との活動で刺激を受け、また温かく迎えてくださることを大変有難く感じております。

これからも JIA 長野県クラブの先輩方との活動を通じ、建築の設計に従事する者として、建築の重要性、楽しさを一緒に学んでいけたらと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

【岡沢 晴也】



建築・住宅写真の撮影業務をメインに活動しております。撮影時は最高の絵となるよう構図、明暗、陰影、色合いを慎重大胆に決め、撮影後のレタッチでは、現場で対処できない部分をカバーするとともに、空間の魅力がさらに広がるよう、さまざまな手法を駆使して 1 枚の絵に仕上げていきます。建設業界紙勤務からフリーとなっておよそ四半世紀。雑誌では累計 500 棟の住宅を取材、撮影し、執筆、誌面レイアウトなども手がけました。JIA メンバーのなかにもご協力いただいた皆様が少なからずおられます。建築に真摯に向き合うプロフェッショナルな皆様の思いを受け止め、何か少しでもお役に立つことができれば、と思います。撮影に関することはなんでもご相談ください。屋号はゲンダイブロ、どうぞよろしくお願い致します。

【(株) マルオカ 事業推進室 佐藤 文宏】



弊社は、今年 4 月より 小諸市の鎌田建築設室様よりご紹介をいただき、JIA 長野県クラブに加入させていただきました。建築家の皆様とは、直接お会いする機会は本当に少なく、主に施工会社様との取引関係で、これまで 間接的にしか接触ができませんでした。

弊社は、木造のプレカット加工(納品)をはじめとした材木屋でございす。この木材をはじめとして、住設機器・各種建材・サッシ・外壁工事・建方工事、を生業としております。また、創業 70 周年を迎え、職人(大工)さん不足に備えて、大型パネル事業にもチャレンジを開始しました。もっと皆様と一緒に活動をして、昨今の中大規模の木造建築の普及をいたしたく、加入させていただきました。どうぞよろしくお願い致します。

【(株) 新建新聞社 新建新聞編集課 栗原 直良】



法人協力会員に新規入会させていただきました。宜しくお願いいたします。弊社は、『信州の建築家とつくる家』で皆様には大変お世話になっており、「いまさら」の声も聞かれそうですが、ようやく、しかるべきところに落ち着いて安堵しております。ただ、私、『つくる家』の担当部署とは別の、県内の建設関係業界全般を対象とする「建設メディア事業部」に所属しており、守備範囲の広さに反比例して切り込みが浅いきらいがあります。そのため、取材の深化を目指して、面白い話題を発信すべく

取り組んで参ります。ぜひ皆さま、遠慮なさらずにご指導ご鞭撻、改めて、どうぞ宜しくお願いいたします。

【大建工業(株) 長野営業所 桐原 恵一】



お世話になります。この度 JIA 長野県クラブに入会しました大建工業(株)です。長野県内には、長野市と松本市に事務所があり、県内を活動しています。よろしく願います。「住宅用建材のメーカー」から「建築資材の総合企業」として住宅・建築業界でのお役立ちのため活動しています。「素材事業」(建材事業(住宅向け・非住宅向け))「エンジニアリング事業」を大きな活動の柱として推進し、一歩先行くグローバル企業を目指している会社です。多彩な製品の中から、皆様のお役に立てるような、また発見があるような提案活動をしていきたいと考えています。何卒よろしくお願い致します。

【モカウッドジャパン(株) 丸山 淳治】



※丸山淳治さんは、個人協力会員から法人協力会員へ会員種別変更をしました。

開催したイベント

4月21日(金)・・・2023 年度通常総会・第1回 JIA 長野建築賞 2022 表彰式
5月31日(水)・・・第1回幹事会
6月23-24日(金・土)・・・大阪研修旅行
7月12日(水)・・・第2回幹事会・技術交流会
8月 2日(水)・・・藤森建築(小泊 Fuji・五竜)見学会
8月 4日(金)・・・夏のセミナー・懇親会

今後の行事予定

9月 1日(金)・・・第1回 JIA 長野建築賞 2022 受賞建築見学会
9月30日(土)・・・温熱教室 2023
10月11日(水)・・・第3回幹事会・仕事を語る会
11月30日(木)・・・冬のセミナー・第2回 JIA 長野建築賞 2023 表彰式

編集
後記

特集は大阪研修旅行と夏のセミナーです。新規会員も多かったため、3 ページでの構成としました。構成やページ数を調整できることは、クラブ内編集のメリットかと思ひます。執筆の皆様、多忙の中ありがとうございました。広報委員会副委員長 鈴木敏之



公益社団法人日本建築家協会

編集人/鈴木敏之 発行人/林 隆
発行所/JIA 長野県クラブ
長野県南長野妻科 426-1 長野県建築士会会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
<https://jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com